

さと こう えん

あらさわふる里公園周辺エリア

自然・茶畑・公園を
一体で楽しむことができるあらさわふる里公園

さと こう えん



① 一面に広がる自然・茶畑・公園



② 市民協働で作り上げるあらさわふる里公園

所在地	御前崎市下朝比奈158-7周辺
面積	約160ha
施設	施 設：総合事務所、農産物直売所、バーベキュー広場、レストラン等 その他：展望台、棚田、水質浄化池、水車小屋、芝スキー場、展望広場、多目的広場、動物小屋、散策道、 ビオトープ、観察舎、あらさわ池、茶畑等
アクセス	【車】 ・掛川駅から車で約35分 ・東名高速道路 相良牧之原 I Cから約20分 【公共交通（バス）】 ・木ヶ谷バス停から徒歩約40分、浜岡総合運動場前バス停から徒歩約50分

自然

「あらさわふる里公園」周辺エリアは、牧之原台地から続く丘陵地帯にあり、起伏に富んだ斜面地とそこに広がる茶畑が美しいエリアである。

特に「あらさわふる里公園」は、総面積15.4haの里山を背景とした水と緑の豊かな自然、小鳥のさえずり、人々のやすらぎとすばらしい触れ合いの出来る『ふるさと』を感じさせる公園である。さらに周辺には茶畑があるため、公園・山林・青空・茶畑の緑と空が一体となった景観が鮮やかに広がる。公園内にあるビオトープではトンボやメダカ、野鳥などの姿が見られ、里山ならではの風景に癒やされる。1月のロウバイ、サザンカ、ツバキに始まり、梅、紅桜などが順々に咲き、年間を通して鮮やかな花々を觀賞することができる。

観光

「あらさわふる里公園」は地方自治法第244条2で指定される『ふるさと交流拠点』としてオープンした施設である。「あらさわふる里公園」内には、総合事務所、レストラン、バーベキュー広場がある。安くて新鮮な地元産野菜を農家から直接仕入れ、販売している農産物直売店は、ふる里の旬の味覚が楽しめることで人気である。また、バーベキュー広場では、地元産和牛や採れたての野菜を使ったバーベキューを園内の緑を感じながら楽しむことができる。他にも芝生広場や芝スキー場、散策道があり、運動や憩いの場所として大人から子供まで多彩な楽しみ方ができる。特に公園北部の展望台からは、公園・山林・青空・茶畑等の緑と空が一体となった景観と市街地～遠州灘の海までを一望することができる。

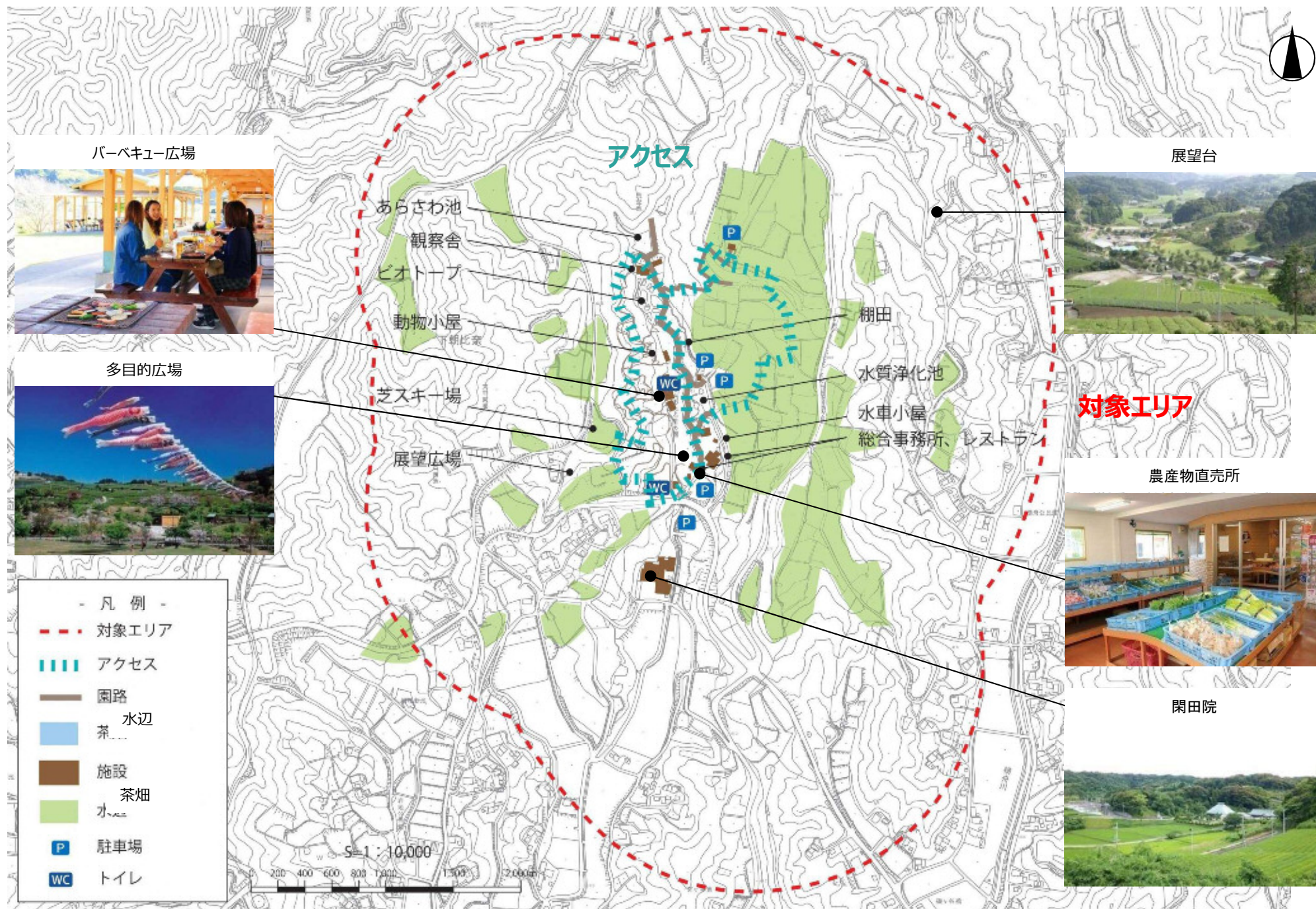
イベント

「あらさわふる里公園」では年間を通じて様々なイベントが行われている。広い広場と自然を活用したヨガ教室や市民から寄付された鯉のぼりを飾るお祭り、周辺の茶畑で茶摘み体験をし、味わう茶園ピクニック等、良好な自然と管理者及び市民協働で実施されるイベントが特徴的である。

2. 対象エリアの位置図



2. 対象エリア図



① 一面に広がる公園・自然・茶畑の景観

(1) 自然、農地



美しい緑と農村景観

水と緑、小鳥のさえずり、広大な園内で大自然を満喫できる自然豊かな「あらさわふる里公園」は、『ふるさと』を感じさせる多目的公園。さらに周辺は茶畑が広がり、公園・山林・青空・茶畑等の緑と空が一体となった鮮やかな景観を見ることができる。また公園の北側に位置する展望台からは、山や市街地の奥に遠州灘の海を同時に望むことができる市内唯一の眺望ポイントである。



周辺の茶畑では、農家や茶業振興協議会が連携し、市内外の方に御前崎市の新茶の恵みを喜び、楽しんでもらうイベントとして茶園ピクニック（新茶の初摘み体験、カフェ、手揉み体験）を実施している。

しかしながら、近年社会問題にもなっている農業者の後継者不足や高齢化により、今後、耕作放棄地の増加や手放した農地の開発が考えられ、景観が損なわれる恐れがある。



〈景観形成の主な課題〉

- ・農村景観の調和を欠く、耕作放棄地の発生や建物・構造物等の建設の恐れ

② 市民協働でつくり上げるあらさわふる里公園の景観

(1) 管理者及び住民の活動



管理者と住民でつくるにぎわい

「あらさわふる里公園」は、自然や四季折々の花々等を楽しむ公園として利用されるだけでなく、市民から提供された鯉のぼりを飾るイベント会場、地元の野菜が並ぶ直売所、地元の食材を味わえるレストラン、地元食材と自然を楽しむことができるB B Q場等として利用されており、管理者と市民でつくられるにぎわいの景観を見ることができる。

このような管理者と市民及び事業者によってつくられるにぎわいの景観をこれからも維持・創出するため、官民が連携したイベントの維持が必要である。



(2) アクセス、サイン



市民に親しまれる御前崎の公園

「あらわさふる里公園」で年間8.5万人（平成30年時点）が訪れる観光地である。

しかしながら、他の観光地と比べて来訪客数が少なく、特に市外及び県外在住者の認知度が低くなっている。これはアクセス方法が限定されている（公共交通でアクセスする場合は50分ほどバス停から歩かなければならないため、自家用車等でアクセスするしかない）、P R 不足などが考えられるため、アクセス方法の検討や訪れた人にとってわかりやすいサイン整備など、来訪を促すための快適な環境整備が必要である。

〈景観形成の主な課題〉

- ・官民連携のイベントの継続
- ・サインのデザインが統一されておらず。連続した配置にもなっていない。
- ・アクセス方法が限定

自然・茶畑・公園を 一体で楽しむことができるあらさわふる里公園

地域住民の視点

- ・一年を通して季節の景観を楽しめる魅力的な場所を維持する
- ・茶園に関しては条例で開発規制をかけて維持していくことを検討したい
- ・アクセスを改善する必要がある
- ・若い人の集客をどのように向上させるのか

有識者の視点

- ・手入れされた芝生や高台から眺める緑と公園と市街地と海が一体となった美しい景観が特徴的
- ・起伏に富んだ地形が多いため、里山に囲まれた市街地とその先に海が見える景観とスポット(視点場)を大切にしたい
- ・ポテンシャルは高いが、アクセスが問題
- ・地元の観光事業者と協力し、体験と食がセットで楽しめる観光パッケージを検討すると良い
- ・BBQ場は拠点として活用していくよい資源

目標 1

茶園と自然が一体となった景観を
これからも維持



景観づくり方針

- ①茶園、公園、周辺景観を適切に
維持・管理

目標 2

地元や管理者とつくるおもてなし
景観づくり



景観づくり方針

- ①利便性に配慮したおもてなしの場
づくり
- ②利用者や地元とつくり上げる、自然
と賑わいの景観づくり
- ③誰でも利用しやすい公園景観づくり

目標1 茶園と自然が一体となった景観をこれからも維持

方針1-① 茶園・公園・周辺景観を適切に維持・管理

	取組み	実施主体
短期	①清掃活動の継続 ・ふるさとが感じられる公園と茶畑の景観がこれからも維持されるように事業者や地域等が協働で清掃を継続する（事業者：公園内の清掃、地域等：茶畑や地域内の清掃）	・管理者、地域住民
中・長期	②未来の農業者の育成と確保 ③市民協働で農地を守る体制づくりの推進 ④景観計画の策定 ・ふるさとが感じられる公園と茶畑の景観を阻害する恐れがある太陽光パネルや建物・構造物等の設置や形態についてルールを検討する ⑤耕作放棄地の活用方法の検討	・市、農家 ・市、農家 ・市、地域住民 ・管理者

目標2 地元や管理者とつくるおもてなし景観づくり

方針2-① 利便性に配慮したおもてなしの場づくり

	取組み	実施主体
中・長期	⑥その他の観光地や民間事業者（宿泊施設や観光事業者等）と連携したアクセス方法の検討	・事業者、市

方針2-② 誰でも利用しやすい公園景観づくり

	取組み	実施主体
短期	⑦PRのためのパンフレットやwebの作成	・地域、管理者、市
中・長期	⑧ユニバーサルデザインを考慮した公園整備の検討	・市
	⑨園内のサイン計画の検討 ・子供やお年寄りにとってわかりやすいサインとなるように、ピクトグラムの記載や統一されたデザインおよび配置を検討する	・市
	⑩Wi-fiの整備検討	・市
	⑪利用促進を図るため、BBQ場のネット予約サービスを検討	・事業者

方針2-③ 利用者や地元とつくり上げる、自然と賑わいの景観づくり

	取組み	実施主体
短期	⑫公園利用に係わるサポーター制度を検討 ・地元住民が公園を使い・愛着を醸成することが、これからもエリアの自然やにぎわいを維持していくことに繋がるため、自然の遊び方を伝える仕組みや活動体制をつくる（例えば木のぼりや植物採取などに利用してもらえるよう小学校や幼稚園に要請する等）	・管理者、市
	⑬地元と管理者が連携した新たな体験メニューの構築	・管理者

7. 景観施策(案)のイメージ図

